

学会記事

I. 運営委員会報告

以下の日程でメール審議を実施した。

1. 林野庁長官に提出する東日本大震災後の海岸林復旧事業に関する緊急要望書の文面について審議し決定した（審議期間 2012 年 11 月 6 日から 11 月 20 日）。
2. 東北森林管理局長及び関東森林管理局長に提出する東日本大震災後の海岸林復旧事業に関する緊急要望書の文面について審議し決定した（審議期間 2012 年 11 月 21 日から 11 月 27 日）。
3. 植生学会第 18 回大会で開催するシンポジウム「自然の再生力とふるさとの海岸林復興」の運営方法について審議し、植生学会が主体となり市民団体や行政機関と協働することとした（審議期間 2013 年 5 月 14 日から 5 月 28 日）。
4. 福島県相馬市で開催するシンポジウム「東日本大震災で被災した海岸林復旧のあり方を考える－植生保全も目指した松川浦での試み」の運営方法について審議し、植生学会主催とすることを決定した（審議期間 2013 年 6 月 24 日から 7 月 5 日）。
5. 2013 年度学会各賞の受賞予定者について審議し、受賞者を決定した（審議期間 2013 年 9 月 12 日から 9 月 20 日）。
6. 会長及び運営委員の選挙について、次期執行部決定後に行われる各種委員の選出時間に余裕を持たせるため、日程を早めて実施することを審議し、承認した（審議期間 2013 年 9 月 15 日から 9 月 24 日）。
7. 2012 年度に特別予算として計上されていた震災復興プロ

ジェクト経費について審議し、今年度もシンポジウム開催や報告書作成を目的に予算化することを決定した（審議期間 2013 年 9 月 15 日から 9 月 24 日）。

2013 年 10 月 12 日に仙台市戦災復興会館において定例の運営委員会を開催した。審議事項は以下のとおり。

1. 2012 年度収支決算（案）について審議した。
2. 2013 年度収支予算（案）について審議した。
3. 植生学会表彰規程の改定することとした。

植生学会表彰規程の改訂内容（変更箇所のみ）は以下のとおり。

（旧）

第 7 条 [奨励賞] 本会が発行した刊行物に優秀な論文を発表し、独創性と将来性をもって学術的貢献をなしたと認められる者に授与する。選考の対象者は学生及び博士研究員とし、年齢は問わない。別に定める植生学会奨励賞推薦要領に基づき、推薦者によって推薦書が提出された受賞候補者の内から表彰委員会が受賞予定者を選定する。

（新）

第 7 条 [奨励賞] 本会が発行した刊行物に優秀な論文を発表し、独創性と将来性をもって学術的貢献をなしたと認められる者に授与する。選考の対象者は 40 歳未満のものとし、過去に奨励賞の受賞経験のない者とする。別に定める植生学会奨励賞推薦要領に基づき、推薦者によって推薦書が提出された受賞候

別掲 1. 植生学会 2012 年度収支決算

(単位: 円)

収入の部		予 算	決 算	差 異	備 考
前期繰り越し		5,152,238	5,152,238	0	
会費		3,280,000	3,266,000	14,000	
バックナンバー売り上げ		20,000	7,500	12,500	
雑収入		500,000	549,067	-49,067	
			(49,633)		内訳 1: 著作権使用料など
			(499,434)		内訳 2: 植生学会誌別刷・超過ページなど
利息		500	239	261	
計		8,952,738	8,975,044	-22,306	
支出の部		予 算	決 算	差 異	備 考
植生学会誌刊行費	900,000 円× 2 回	1,800,000	1,491,072*	308,928	*第 29 巻 1 号・2 号
植生情報刊行費	500,000 円× 1 回	650,000	640,500*	9,500	*第 16 号
学会事務局経費		700,000	600,529	99,471	内訳: 学会事務局事務の委託費
			(256,614)		
編集事務局経費		100,000	5,390	94,610	
植生情報編集費		40,000	33,680	6,320	
企画委員会経費		600,000	333,870*	266,130	*第 8 回シンポジウム
表彰委員会経費		50,000	43,435	6,565	
将来計画委員会経費		150,000	113,360	36,640	
大会補助費		350,000	350,000*	0	*第 17 回大会
震災復興プロジェクト経費		900,000	551,185	348,815	
群集データベース作業グループ経費		150,000	0	150,000	
予備費		3,462,738	105,840*	3,356,898	*植生学会誌別刷・超過ページ
計		8,952,738	4,268,861	4,683,877	
収支差額（繰り越し）		0	4,706,183	-4,706,183	

補者の内から表彰委員会が受賞予定者を選定する。

4. 将来計画委員会が立案した計画（詳細はホームページに掲載予定）の実践方法について検討するプロジェクトチームを立ち上げることにした。
5. 事務局が行っていた会計業務の一部を外部に委託することとした。
6. 第19回大会（2014年度）の開催地について、2014年10月18日から10月21日に新潟市朱鷺メッセで開催することとした。

II. 編集委員会報告

2013年10月12日に仙台市戦災復興会館において定例の委員会を開催した。審議事項は以下のとおり。

1. 編集委員の任期満了に伴う次期委員会への編集業務移行を円滑に進めるために、必要な措置を講じることにした。
2. 論文審査を迅速に行うため、審査業務マニュアルを一部改定することとした。
3. 植生資料の超過ページ料金の軽減策について協議し、継続審議とした。
4. 植生学会論文賞細則を一部改定することとした。

III. 企画委員会報告

2013年10月12日に仙台市戦災復興会館において定例の委員会を開催した。審議事項は以下のとおり。

1. 震災復興プロジェクトの活動報告を植生情報に掲載することとした。
2. 生態学会広島大会における群落談話会の開催について、一般参加の是非を確認することとした。

IV. 表彰委員会報告

学会賞候補者を運営委員会に諮る際には、表彰委員会で審査に用いた全資料を提出することとした。

V. 将来計画委員会報告

将来計画委員会が立案した計画（詳細はホームページに掲載予定）の実践方法について審議し、将来計画推進チームを立ち上げてそれぞれ対応することを決定した。

VI. 2013年度総会報告

2013年10月13日に仙台市戦災復興会館において2013年度総会が開催され、以下の事項が報告または承認された。

A. 報告事項

1. 学会事務局

2013年9月27日現在の会員数（正会員数561名、団体会員10団体、賛助会員1団体）が報告された。

2. 各種委員会

上記I-Vの運営委員会、各種委員会の審議事項が報告された。

B. 承認事項

1. 2012年度収支決算（別掲1）を承認した。
2. 2013年度収支予算（別掲2）を承認した。

C. その他

第19回大会開催地（新潟市）の運営代表者として崎尾均氏より、多数会員の参加が要請された。

VII. 学会賞

2013年度の学会各賞の受賞者は以下のとおり。授与式は2012年10月13日に行われ、各賞受賞者に表彰状と記念品が福岡会長から贈呈された。

別掲2. 植生学会2013年度収支予算

(単位: 円)

収入の部		2013年度	2012年度	差 異	備 考
前期繰り越し		4,706,183	5,152,238	-446,055	
会費		3,280,000*	3,280,000	0	*一般463, 学生98, 団体10, 賛助1
バックナンバー売り上げ		20,000	20,000	0	
雑収入		500,000	500,000	0	
利息		500	500	0	
計		8,506,683	8,952,738	-446,055	
支出の部		2013年度	2012年度	差 異	備 考
植生学会誌刊行費	900,000円×2回	1,800,000*	1,800,000	0	*第30巻1号・2号
植生情報刊行費	650,000円×1回	650,000*	650,000	0	*第17号
学会事務局経費		900,000*	700,000	200,000	*選挙関連経費, 名簿印刷費を含む
編集事務局経費		100,000	100,000	0	
植生情報編集費		40,000	40,000	0	
企画委員会経費		600,000*	600,000	0	*第9回シンポジウム, 第18回大会シンポジウム
表彰委員会経費		50,000	50,000	0	
将来計画委員会経費		150,000	150,000	0	
大会補助費		350,000*	350,000	0	*第18回大会
震災復興プロジェクト経費		350,000	900,000	-550,000	
群集データベース作業グループ経費		150,000	150,000	0	
予備費		3,366,683	3,462,738	-96,055	
計		8,506,683	8,952,738	-446,055	

植生学会賞 星野義延 (東京農工大学・院・農)

植生学会論文賞

石田弘明・服部 保・黒田有寿茂 (兵庫県立大学自然・環境科学研究所)・橋本佳延 (兵庫県立人と自然の博物館)・岩切康二 (岩切環境技研株式会社)

屋久島低地部の照葉二次林に対するヤクシカの影響とその樹林の自然性評価 (植生学会誌 第29巻 第1号 49-72頁 2012年6月発行)

植生学会研究発表賞

口頭発表賞 鈴木康平 (筑波大学・院・生命環境科学) ユーラシアステップにおける植物社会学的研究—新疆ウイグルからモンゴル東部を対象として—

ポスター発表賞 宇田川卓義 (鳥取大学・地域) モンゴル草原における植生分布とネギ属2種の個体形質

VIII. 植生学会第18回大会報告

植生学会第18回大会 (大会会長: 平吹喜彦, 実行委員長: 佐々木洋) が, 2013年10月12日から10月14日にかけて, 仙台市戦災復興会館において開催された (下記日程). 一般講演では口頭27題, ポスター32題の発表が行われた. 参加者は予約申込者114名, 当日参会者55名の計169名であった.

10月12日 公開シンポジウム「自然の再生力とふるさとの海岸林復興」, 各種委員会, 運営委員会

10月13日 一般講演 (口頭発表・ポスター発表), 学会賞授与式, 総会, 学会賞受賞者講演, エクスカーション説明会, 懇親会

10月14日 エクスカーション (仙台湾岸の砂浜海岸・震災被災地)

一般講演は以下のとおりであった.

(口頭発表)

- A01 北上山地北部地域におけるミズナラ林とコナラ林の分布について. 大山弘子・杉山廣雄 (東北環境緑化保全(株))・菅野洋 (かんのいきもの研究舎)
- A02 大台ヶ原に生育するヒノキ自然林について. 麻生泉 (宍緑空間計画)・菅沼孝之・名迫素代 (奈良自然環境研究会)・小野由紀子 (㈱環境総合テクノス)・石山麻子・森田哲朗 (㈱地域環境計画)
- A03 ユーラシアステップにおける植物社会学的研究—新疆ウイグルからモンゴル東部を対象として—. 鈴木康平 (筑波大・院・生命環境科学)・Abdisalam Jalaldin・Nurbay Abdusalik (新疆大学)・Tsagaanbandi Tsendeekhuu (National University of Mongolia)・Amartuvshin Narantsetsegiin (Institute of Botany, Mongolian academy of Science)・上條隆志 (筑波大・生命環境系)・津山幾太郎 (森林総研・植物生態)・中村徹 (筑波大・生命環境系)
- A04 ヤクスギ老齢木に着生する木本植物群落. 南野拓也・石井弘明 (神戸大・院・農学研究科)
- A05 元国指定天然記念物静狩湿原のフロラ変化. イアヨン (北海道大学大学院農学院)・富士田裕子 (北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園)
- A06 国指定天然記念物「女満別湿生植物群落」における湿生林の遷移及び更新. 富樫晃一 (北海道大学農学院)・富

士田裕子 (北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園)

- A07 釧路湿原の植物群落. 若山正隆 (東大・院・農)・古橋光弘・佐藤正人 (浦和自然観察会)・佐藤雅俊 (帯広畜産大学畜産生命科学研究部門)・富士田裕子 (北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園)・橘ヒサ子
- A08 利根川流域の不作付水田における10年間の植生変化. 三上光一・楠本良延・山本勝利 (農環研)
- A09 長野県飯島町の放置雑木林における管理再開後3年間の植生変化. 蛭間啓 (飯田市美術博物館)・野口の森里山づくりの会
- A10 新潟市の海岸クロマツ林における10年間での植生遷移と土壌の変化. 中田誠・岩井彩佳 (新潟大・農)
- A11 さいたま市荒川河川敷のハンノキを中心とした河畔林の成立と遷移. 若山正隆・古橋光宏・佐藤正人・山口綾子・中村純子 (浦和自然観察会)・大澤元 (自然観察指導員埼玉)・横尾柊子・西ノ原章浩 (浦和自然観察会)・高橋勝緒・高橋絹世 (和光・緑と湧き水の会)・太田和夫 (元埼玉県立自然史博物館)
- A12 不嗜好植物クリンソウとミヤコアオイに対するシカの採食影響と可塑性. 前迫ゆり (大阪産業大学大学院人間環境学研究科)・鈴木亮 (筑波大学菅平高原実験センター)
- A13 ニホンジカの高密度化は植物群落の集合パターンに影響を及ぼすか? 大橋春香 (筑波大学・生命環境)・星野義延 (東京農工大・農)
- A14 割らなきゃならない「被度」の統計的扱いについて. 池田浩明 (農環研)
- B01 仙台湾の砂浜海岸を覆う海岸林盛土とわずかな残存立地間の植生比較. 平吹喜彦 (東北学院大・地域構想)・菅野洋 (かんのいきもの研究舎)・杉山多喜子 (宮城植物の会)・富田瑞樹・原慶太郎 (東京情報大・環境情報)
- B02 東日本大震災による津波被災地の沿岸部植生の状況. 村上雄秀・目黒伸一・林寿則・矢ヶ崎朋樹 (国際生態学セ)・島田直明 (岩手県立大)・佐々木寧 (埼玉大名誉)・鈴木康平 (筑波大)
- B03 仙台湾域老齢防潮林の2002年から2010年までの8年間の動態. 長島康雄 (仙台市立西山中学校)・攝待尚子 (仙台市立富沢中学校)
- B04 三陸海岸北部の小規模湿地の植生. 吉川正人・鐵慎太郎 (東京農工大・農)・鮎川恵理 (八戸大・工)
- B05 三宅島2000年噴火跡地におけるイズアオドウガネの遷移初期植物に対する影響とその嗜好性. 守谷平・上條隆志 (筑波大・生命環境)・橋本啓史 (名城大・農)
- B06 三宅島火山灰堆積地における中大型ミミズの分布と安定同位体分析による餌資源の推定. 門倉由季・上條隆志 (筑波大・生命環境)・橋本啓史 (名城大・農)・金子信博 (横浜国大・環境情報)
- B07 愛知県豊田市小原の黒雲母花崗岩地域におけるフモトミズナラとアベマキの実生生残特性の違い. 広木詔三 (愛知大学)
- B08 着生シダ植物の定着に蘚苔類群落が与える影響. 水野大樹・竹崎大悟・百原新・沖津進 (千葉大学大学院園芸学研究科)

- B09 歴史の長いゴルフ場に残存する草原生植物. 松村俊和 (甲南女子大学・人間科学部)・橋本佳延 (兵庫県立人と自然の博物館)・澤田佳宏 (兵庫県立大・院・緑環境景観マネジメント研究科/淡路景観園芸学校)
- B10 国道38号線滝川～釧路間の路面間隙における夏季の雑草植生. 持田誠 (帯広百年記念館)
- B11 モンゴル中西部に分布するステップの群落構造. 川田清和 (筑波大学生命環境系)・黒川巧・角田圭佑 (筑波大学生命環境科学研究科)・Tsagaanbandi Tsendeckhuu (モンゴル国立大学)・中村徹 (筑波大学生命環境系)
- B12 マレーシア・サラワク州におけるブナ科植物の垂直分布—特に低海拔地における種の多様性について—. 原正利 (千葉中央博)・大久保達弘 (宇都宮大・農)・Rantai Jawa (Botanical Research Center, Sarawak Forestry Cooperation, Malaysia)・Paul Chai (ITTO project, Sarawak Forest Dept., Sarawak, Malaysia)
- B13 エストニアの森林植生地理. 沖津進 (千葉大学大学院園芸学研究科)
(ポスター発表)
- P01 東日本大震災の津波被害を受けた岩手県の砂浜における埋土種子と漂着種子. 川西基博・日高未央 (鹿児島大・教育)・島田直明 (岩手県立大・総合政策)・早坂大亮 (近畿大・農)
- P02 岩手県沿岸の植生—大津波の影響による変化(2). 竹原明秀・高橋和那・田嶋由 (岩手大・人社)・大上幹彦
- P03 東日本大震災の津波による植生への影響—津波浸水域全体における植生変遷図の作成—. 佐藤直人・馬淵亮・中山隆治 (環境省自然環境局生物多様性センター)・寺澤弘陽・磯田真紀・染矢貴・壺岐信二・市橋理・塚本吉雄 (アジア航測株式会社)
- P04 宮城県津波被災農地における植生回復状況について. 西村愛子・浅井元朗・渡邊寛明 ((独)中央農業総合研究センター)
- P05 植物相から見た岩手県の保全すべき砂浜—東日本大震災からの海浜性種の保全を目指して. 島田直明・昆野紘士 (岩手県立大)・川西基博 (鹿児島大)・早坂大亮 (近畿大)
- P06 兵庫県北部の森林伐採跡地に分布する外来木本ニワウルシ群落の構造と種組成. 石田弘明 (兵庫県立大学自然・環境科学研究科)
- P07 大隅半島における照葉原生林の種組成と生活型. 本川悠平・川西基博 (鹿児島大・教育)
- P08 伊豆諸島神津島・新島のリョウブ低木林の種組成の特徴. 牧口陽介・星野義延 (東京農工大・院・農)
- P09 島嶼におけるブナの北限, 北海道奥尻島のブナ林の種組成と林分構造. 佐々木祥世・並川寛司 (北海道教育大学・札幌校)・北村系子 (森林総合研究所・北海道支所)・松井哲哉 (森林総合研究所)
- P10 ブナーホオノキ混交林におけるブナ下層木個体群の動態. 木下秋 (岡山大院・環境)・赤路康朗 (岡山大院・環境)・牧本卓史 (岡山県)・宮崎祐子 (岡山大院・環境)・廣部宗 (岡山大院・環境)・水永博己 (静岡大・農)・坂本圭児 (岡山大院・環境)・山本進一 (岡山大)
- P11 米子市の成熟した照葉樹林で2011年年始に発生した冠雪被害の特徴. 坂尾千恵 (淡路景観園芸学校)・永松大・藤木亀吉 (鳥取大・地域)
- P12 山陰東部におけるブナ帯要素の山地間比較. 清水寧久・永松大 (鳥取大・地域)
- P13 湿地植物データベースを用いた北海道の湿地における植物の分布特性. 新美恵理子 (北海道大学農学院)・富士田裕子・小林春毅 (北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園)
- P14 香川県の植生—環境省第6・7回植生図を用いた行政単位別の植生解析の試み—. 森定伸 (株式会社ウエスコ岡山自然環境課)・小川みどり・波田善夫 (岡山理科大・生物地球学部・生物地球学科)
- P15 山岳地における縮尺1/25,000の植生図化手法の検討. 馬淵亮・河野円樹 (環境省自然環境局生物多様性センター)・成ヶ沢久仁子・浅井樹・塚本吉雄 (アジア航測(株))・清水英彦 (清水植生調査室)
- P16 伊豆諸島新島における落葉広葉二次林の更新過程と現状. 前田海門 (筑波大・院・生命環境科学)・上條隆志 (筑波大・生命環境系)
- P17 愛媛県由良半島における戦後の土地利用変化と放棄段畑植生の群落構造. 徳岡良則 (農環研)・橋越清一 (南宇和高校)
- P18 淡路島における放棄ジュルタ(湿田)の植生と人との関わり. 藤原雄介・澤田佳宏・山本聡・大藪崇司・藤原道郎 (兵庫県立大・院・緑環境景観マネジメント研究科)
- P19 佐渡島における林間放牧が植生に与えた影響. 宮島伸子 (新潟大学大学院・自然科学研究科), 川西基博 (鹿児島大学・教育学部), 崎尾均 (新潟大学・農学部)
- P20 火山性荒廃地においてリル地形形成は植生回復に貢献しているか? 菊池輝海 (筑波大学生命環境科学)・松岡憲知・上條隆志・廣田充 (筑波大学生命環境系)
- P21 多摩川中流部の植物群落の分布に及ぼす人工構造物の影響. 増田知美・星野義延・吉川正人 (東京農工大・院・農)
- P22 海岸の希少種バシクルモンの新潟県における生育地の植生. 指村奈穂子 (神奈川県自然環境保全センター)・大谷雅人・古本良 (森林総合研究所林木育種センター)・横川昌史 (大阪市立自然史博物館)・澤田佳宏 (兵庫県立淡路景観園芸学校)
- P23 筑波研究学園都市におけるキンラン属3種の生育環境と外生菌根性樹木との関係. 藤平真理子・阿部淳一・ピーター・上條隆志 (筑波大・生命環境)
- P24 沖縄島におけるセイロンベンケイ生育地の特徴. 小川滋之 (千葉大学大学院園芸学研究科)
- P25 河口砂州における海浜植物ハマゴウの定着と拡大. 二神良太・岡浩平 (広島工業大学・院・工学系研究科)
- P26 ヒメサユリ (*Lilium rubellum*) 自生地の種組成および植生構造. 大曾根陽子 (首都大東京)・菊地賢 (森林総合研究所)・河原崎里子 (首都大東京)
- P27 ニホンジカが伊豆半島の植生に与える影響. 星野義延 (東京農工大・院・農)・大橋春香 (筑波大学・院・生命環境)・星野順子 (東京環境工科学園)・藤田卓 (日本自然保護協会)
- P28 ガーデニング植物の逸出と受容植生構造の関係. 西尾孝

-
- 佳・栗原由依加（宇都宮大学雑草科学研究センター）
- P29 内モンゴル右旗における放牧圧と草原植生の関係. 胡曉星（筑波大学生命科学研究科）・上條隆志（筑波大学生命環境系）・烏云娜（大連民族学院環境資源学院）
- P30 モンゴル草原における植生分布とネギ属2種の個体形質. 宇田川卓義・永松大（鳥取大・地域）・伊藤健彦（鳥取大・乾地研セ）・今井俊輔（鳥取大・農）
- P31 Effects of soil erosion rates on vegetation and soil physiochemical properties in a crop abandonment steppe of Inner Mongolia. Shinchilelt・Takashi Kanda（筑波大学）・Hide-shi Fujiwara（農業環境技術研究所）・Wuyunna（大連民族学院大学）・Kenji Tamura・Takashi Kamijo・Toru Nakamura（筑波大学）
- P32 浸透移行性殺虫剤がトンボ類幼虫の群集構造に及ぼす生態影響. 早坂大亮（近大・農, 国環研・生物）・鈴木一隆・是永知子（国環研・生物）・諸岡（齋藤）歩希（立正大・地球環境）・野村拓志・深澤圭太・五箇公一（国環研・生物）